



総務文教委員会 研修報告

平成28年7月25日～27日

英語教育を視察

平成32年度から、小学3年生で外国語活動を開始し、5年生で英語が正式教科になるため、英語教育の先進地を視察した。

滋賀県守山市では、5歳児から小学4年生を対象に、保育園や小学校に外国人の英語指導助手（ALT）を派遣し、英語活動を通じたコミュニケーションによって外国人や外国文化に興味を持たせる「ハローイングリッシュプロジェクト」を実施している。

石川県金沢市では「小中一貫英語教育」を行っている。小学1年生から英語活動を開始、同3年生からは正式教科に設定し、独自教科書や副読本、



金沢市での研修風景

【人 口】	
守 山 市	81,467 人
金 沢 市	466,062 人
黒 部 市	41,805 人

教材を活用するなど義務教育9年間を通じた英語カリキュラムとしている。英語インストラクターやALT等の指導者育成にも力を入れている。

両市とも、現代社会における英語力の必要性を強く意識しており、筑後市教育大綱に謳う「グローバル人材の養成」と相通じるものがあつた。一方、多額の経費と人材確保が課題であると感じた。

その他、富山県黒部市では新庁舎建設について研修した。

厚生委員会 視察報告

平成28年7月25日～27日

厚生委員会では、奈良県桜井市のし尿処理施設と兵庫県相生市の子育て支援施設を視察した。

当市のし尿処理施設（衛生センター）は、稼働後32年を経過し、老朽化する施設の改修が急務となつているため、既存施設を基幹改修し、延命化して安定的に運営が行われている桜井市への視察となつたものである。

既存施設改修で延命化

桜井市も当市と同様に老朽化した施設改修の検討を行う中で、財政的な要因や将来的に下水道の普及により収集量が激減



桜井市での研修風景

【人 口】	
桜 井 市	58,706 人
相 生 市	30,250 人

する予測であること、新設では完成までに5年程度かかること等、総合的に判断し、最も費用対効果の高い延命化の選択となつたということである。

当市の今後の施設改修を考える上で、大変参考になる視察であつた。

事業の選択と集中で子育てに特化

相生市では、「子育て都市宣言」やライフステージを通して一連の定住促進・子育て支援事業を11の施策にまとめた「あ

いおいが暮らしやすい11の鍵」について視察。中学生までの子ども医療費無料化、幼・保・小・中学校の給食費無料化等、子育て応援都市として、全国的にトップランナーである相生市の事業内容は、事業の選択と集中で成し遂げられた印象が強い。結果、出生数の伸びや定住者の増加になつてきている。「あれもこれも」ではなく、事業の選択が良い結果となつた例であると感じた。